

ソフトテニス長期基本計画 2007

(2007年度～2011年度)

趣 旨

(財)日本ソフトテニス連盟では、昭和58年度(1983年度)以来、ソフトテニスの抱える現状や課題に対応するとともに、ソフトテニスのいっそうの普及振興を図るため、長期基本計画を策定し、その方針に従って総合的、計画的に取り組んできた。

現行の長期基本計画は、平成18年度(2006年度)をもってその計画期間を終了するため、現計画の達成状況や課題等を踏まえ、平成19年度(2007年度)から平成23年度(2011年度)を計画期間とする「ソフトテニス長期基本計画2007」を策定するものである。

ソフトテニス長期基本計画2007の理念

今期長期基本計画の理念及び主要課題に掲げられたもののうち、多くは一定の進捗が計られ、成果を上げている。一方で、ソフトテニスに課せられた課題も少なくなく、特に「国際性」については、後に述べるとおり、次期長期基本計画で真剣に取り組まなければならない。

次期長期基本計画では、これまでの長期基本計画の集大成を目指し、新たなソフトテニスの歴史を刻むための礎となるものとして位置づけ、当連盟が総力を挙げて取り組むものとする。

そのため、長期基本計画において取り組むべき施策としてこれまでの基本計画を継続して「競技性の向上」、「競技力の向上」、「国際性の向上」、「大衆性の向上」、「広報力の向上」、「組織、財政の強化」の6つの分野の向上対策としての主要課題を位置づけることとする。

そして、特に重点施策である「競技力の向上」と「国際性の向上」を図る上で、その起爆剤として「競技者育成プログラムの推進」と「オリンピック参加の実現性の検証」をリーディングプロジェクトとして積極的に取り組むこととする。

競技性の向上 今期基本計画の主要課題であり、長年改訂の要望が多かった競技規則の見直しが行われ、審判規則と大会運営規則の3点セットでソフトテニスハンドブックにまとめた。

また、生涯スポーツとしてのソフトテニスの長年の夢であった「日本スポーツマスターズ大会」の参加も実現したが、さらに魅力あるスポーツとするため競技レベルの向上や大会見直し、大会運営改善を図り、国内外の普及はもちろん、見る者をもひきつけ「楽しい、すばらしい競技」を目指す。

競技力の向上 一貫指導システムの構築を目指して、競技者育成プログラムを平成17年度(2005年度)に策定し、平成18年度(2006年度)から本格実施段階に入り、全国展開を図っている。次期長期基本計画で同プログラムの充実と定着化を図るとともに、長期展望を探る。

リーディングプロジェクト

「競技者育成プログラムの推進」

国際性の向上 従来の長期基本方針において、ジュニアに夢を与え、ひいてはソフトテニスの発展の起爆剤とするために、オリンピックの正式種目に採用されるよう、75カ国への普及活動、世界5大陸からの世界大会参加の実現に向け、取組みを進めてきた。また、その取組みを支えるために、平成11年度（1999年度）から会員登録制度を実施している。ところが、国際普及は一進一退であり、オリンピック種目への採用は現時点では目処が立つ状況ではない。次期長期基本計画では、最終目標をオリンピック参加に置きつつ、その実現性等について、客観的に検証し、最終的な方向性を見出すことを目指す。

リーディングプロジェクト

「オリンピック参加の実現性の検証」

大衆性の向上 今期長期基本計画では、ソフトテニスの日、ソフトテニスの歌を制定したほか、ホームページの充実による会員への情報発信などを通じ、ソフトテニスの魅力アップに努め、大衆性の向上に取り組んできた。大衆性の向上は、ソフトテニスの底辺や裾野を広げるとともに、今後の普及振興に関わる基本的な事柄であり、次期長期基本計画でも真剣に取り組んでいく。

広報力の向上 ソフトテニス愛好家がトップレベルのプレーを堪能するためだけでなく、ソフトテニスに関わりのない人にもこの競技のすばらしさを知ってもらうため、テレビ放送は最大のアピールチャンスであり、6年間NHKテレビ放送が継続実施出来たことは大きな成果である。今後も競技性向上に結びつけるための戦略である広報力の向上を図るためNHKテレビ放送の継続はもちろん、積極的なマスコミ対応を含め新聞報道の充実やホームページの充実に取り組む。

組織、財政の強化 組織、財政の強化を図るために平成11年度に制定した会員登録制度も定着し、さらに強固な組織、財政を目指して平成17年度から小・中学生の有料化に踏みきった。時代の変化に対応したIT化による実務の効率化や迅速化は一定の成果があげられた。次期長期基本計画のリーディングプロジェクトである「競技者育成プログラムの推進」と「オリンピックの参加実現性の検証」を始めとした主要課題を着実に実行するためには、莫大な費用と人材が必要になるため、財源対策としてのスポンサー獲得諸制度の整備と諸施策実施のための体制整備に取り組む。

ソフトテニス長期基本計画2007のキャッチフレーズ

以上の最重点事項を踏まえ、次期長期基本計画のキャッチフレーズを次のように定める。

『世界に翔け！日本で生まれたソフトテニス』

